

## 前置詞の研究

## 「前置詞＋名詞」は副詞句か形容詞か

宇賀治 潔

「前置詞＋名詞」は、一般には動詞を修飾する、つまり、副詞句として認識されているようです。しかし、これを名詞を説明する(修飾または補語の関係)、つまり、形容詞句と考えてはどうかというのが私の提案です。以下に「前置詞＋名詞」を形容詞句と見なしたほうが理解しやすい例を列記します。また、最後に前置詞の選択の問題を皆さんにも考えてもらいたいと思います。

## &lt;例文1&gt;

heat always flows from an object with more heat to an object with less.

この英文で、まず「前置詞＋名詞」の形となっている *with more heat* を考えて見ましょう。これは、単純に *object* を修飾している形容詞と見なしますか、それとも *an object provided with more heat* の *provided* を修飾している副詞句であると見なしますか。

また、別の「前置詞＋名詞」の形である *from an object* あるいは *to an object* はどうでしょうか。*flow from* ーtoーの構文になっているので、どちらも形容詞句と見なすことが出来ます。

つまり、*Heat flows from an object* を SVC の文型、*from an object* を主格補語(SVC の C)=形容詞と見なすことが出来ます。*from an object* が形容詞句であることは、*heat from an object* という表現(名詞＋形容詞句)が意味のある英語であることから分かります。

上記の例では、「前置詞＋名詞」を副詞句と見ても形容詞句と見ても、解釈に大きな違いは生じません。しかし、下記の例では解釈が異なってきます。

## &lt;例文2&gt;

I saw her in the kitchen.

この英文は、「私は台所で彼女を見た」と訳するのが一般的とされています。さてここで、「前置詞＋名詞」の形である *in the kitchen* は *saw* を修飾する副詞句でしょうか。もしそうであれば、台所にいるのは「私」なのか「彼女」なのかどちらなのでしょう。少なくとも、上記の和訳ではどちらとも解釈できます。しかしこの英文は、「確かに彼女は台所にいた。私が見たのだから間違いない。」と訳してもよいほど、彼女が台所にいたことをはっきりと示す表現なのです(ただし、「私」がどこにいたかは明確ではありません)。

このことは、上記英文を SVOC の文型、*in the kitchen* を目的格補語(SVOC の C)=形容詞と見なすことで説明できます。一般に、SVOC の文型では、「C」はその前の「O」を説明しており、O=C と表すことができ、「O」is「C」という表現は必ず意味をなします。別の言い方をすれば、SVOC の文型は O=C であることを強調する文型なのです(参考:SVC の文型は S=C であることを強調する文型)。上記の SVOC の英文では、「O」is「C」、つまり *She was in the kitchen* ということが強調されているのです。したがって、彼女が台所にいたことは明確であり、「彼女が台所にいるのを私は見た」と訳す方がより正確な訳であるといえます。

結論として、*in the kitchen* は副詞句ではなく形容詞句であると見なした方がこの英文をよりよく解釈できるのです。

では、台所にいたのが彼女ではなくて私で

あることを強調したい場合にはどう表現したらいいのでしょうか。これは **In the kitchen I saw her.**とすればいいのです(こうすれば SVOC の文型にはなりません)。

<例文3>

**I looked at her in the kitchen.**

「前置詞＋名詞」の形である **in the kitchen** は形容詞句でしょうか。そして台所にいるのは「私」なのか「彼女」なのかどちらなのでしょう。

この文は例文2とよく似ていますが、SVC の変形である SVCC' の文型です。SVCC' の文型では、主格補語が2つあって、最初の主格補語を C、あとの主格補語を便宜上 C' と表現します。上記の英文では、**at her** と **in the kitchen** がそれぞれ C と C' です。「S」 is 「C」および「S」 is 「C'」であることから、**I am (looking) at her** および **I am in the kitchen** であり、台所にいるのは私であることは明確です。

一般に、SVCC' の C' は、本来は形容詞句ですが、主格補語的な意味合いが薄れて副詞句と見なすことも可能で、C' を文の先頭にもってきても文全体の意味は変わりません。このため、上記の英文で C' を先頭にもってきて **In the kitchen I looked at her.** としても意味は同じで、「私は台所で彼女を見つめた」となります。

結論として、**in the kitchen** は形容詞句と見なしても副詞句と見なしても文の解釈は変わりません。では、台所にいたのが私ではなくて彼女であることを強調したい場合はどう表現したらいいのでしょうか。これは **I looked at her who was in the kitchen** とすればいいのです(こうすれば SVCC' の文型にはなりません)。

<例文4>

**I fell in love.**

「前置詞＋名詞」の形である **in love** は形容

詞句でしょうか、それとも、**fell** を修飾する副詞句でしょうか。**in love** を形容詞句と見るとこの文は SVC の文型となります。

SVC の文型は「S」 is 「C」ということを強調する文型なので、**I am in love** ということが強調されていることとなります。また逆に **I am in love.** という文が意味をなす英文であることから、**in love** を形容詞句と見なしてもよいことが分かります。**I fell in love.** は、普通は「恋に落ちた」と訳すと思いますが、この訳文では、「恋に」は「落ちた」を修飾する副詞句になっています。

しかし、このことから類推して、**in love** が **fell** を修飾する副詞句と見なしてもよいものなのでしょうか。たしかにそう見なしても和訳は同じになりますが、逆に「恋に落ちる」を英訳する場合、**I fell to love.**あるいは **I fell into love** と表現してもよさそうになります。

結論として、**in love** は副詞句ではなく、形容詞句であると見なした方がこの英文をよりよく理解できるのです。これと同様に、**I drilled a hole in the board.** (板に穴をあけた)における **in the board** や、**Turn the knob in the arrow direction.** (ノブを矢印の方向に回す)における **I the arrow direction** も、形容詞句と見なした方が理解しやすくなります(**I drilled a hole to the board.**あるいは **Turn the knob to the arrow direction.**とはいいません)。

参考文献:アデプト・コミュニケーション・スクール基礎科テキスト

PART 4「英文の構造」柏田和斗著

以下は前置詞の選択の問題です。「前置詞＋名詞」を副詞句ではなく形容詞句と見なし、それが説明している名詞(形容詞句の被修飾語、SVC の S、または SVOC の O)との関係を明確にとらえるならば、前置詞の選択がより適切なものになると思います。

## <前置詞の選択の問題>

下記の英語の( )野中には前置詞が1つは入ります。皆さんならどれを選択しますか(解答は問題の最後にまとめて示しておきます)。

### 2ストロークエンジン

(1) 自動車の場合は4ストロークサイクルが普通ですが、モータバイクなどの小型エンジンでは2ストロークサイクルもよく使われます。

### Two-strokes

(For, in, On) cars the 4-stroke petrol engine cycle is almost universal, but many smaller engines, including many of those used in motorbikes, often work (for, in, on) a 2-stroke cycle.

(2) 2ストロークエンジンは、ピストンが1回上がって1回下がるたびに力を生み出すようになっており、4ストロークエンジンとかなり構造が異なっています。

Two-stroke engines produce power every two strokes (by, for, of)the piston and are designed rather differently (as, from, with) a four-stroke engine.

(3) 排気ガスが排気ポートから出て行き、代わりに新しい混合気が掃気ポートを通してシリンダー内に入ります。

The exhaust gases escape (at, from, through) the exhaust port and fresh mixture is transferred (at, into, toward) the cylinder (by, from, through) the transfer port.

### 高温超伝導体

(4) 高温超伝導体が実現した場合、すぐ考えられる用途にマグレブ(磁気浮上列車)があります。

### High-temperature superconductors

One item is (from, in, on) everyone's list of potential benefits (for, from, of) high-temperature superconductors: maglevs, or magnetically levitated superfast trains.

(5) マグレブはガイドウエーから4インチ浮上し、磁力のクッションに乗ったような感じになります。

The maglev floats four inches (above, along, from) a guideway (above, like, on) a cushion of magnetic force.

(6) マグレブは、磁石のNとSは引き付けあい、NとN、またはSとSは反発するという単純な原理に基づいています。

The principle (behind, of, under) the maglev is simple: opposite magnetic poles attract each other; like poles repel.

(7) マグレブが走り出すと、車体に取り付けた電磁石の働きで、ガイドウエー上のコイルに勇気電流が発生します。

When the train is (at, in, on) motion, the electromagnets (in, on, to) the train induce electric currents (for, in, to) the guideway coils.

(8) 浮上用の電磁石とはまた別に、U字型のガイドウエーの両側の壁には電磁石が連続的に取り付けられています。これらは推進用の電磁石で、絶えず極性を変化させることによって、車体上の磁石に対して押したり引いたりする力を及ぼします。

Two other rows of electromagnets, one (for, in, on) each wall of the U-shaped guideway, repeatedly reverse polarity to push or pull (against, on, to) the train's magnets.

<解答>

- (1) for, on (2) of, from
- (3) through, into, through
- (4) on, of (5) above, on
- (6) behind
- (7) in, on, in
- (8) on, on